

11) 大腿動脈瘤破裂を合併した亜急性細菌性心
内膜炎の1治験例

山口 明・中山 健司 (県立ガンセンター)
中沢 聡・吉谷 克雄 (新潟病院胸部外科)
寺島 雅範
堀川 紘三・津端 聖美 (同 内科)
関谷 繁樹 (県立瀬波病院)
整形外科

37才, 男子. 昭和61年1月上旬, 風邪様症状, 悪寒

を伴う発熱と足の関節痛で発症. 1ヶ月後に左鼠径部痛に拍動性腫瘍が出現し, 亜急性心内膜炎に合併した左大腿動脈瘤と診断され, 2月20日入院, ペニシリンGによる化学療法を開始した. 約1ヶ月間化学療法を継続したが, 発熱, 白血球増多が治まらず, 3月20日, 左大腿深動脈瘤を切除した. 術後, すみやかに解熱し炎症所見は改善し, 術後約2ヶ月で退院し, 内科外来で経過観察中である.